



2019年4月1日

報道関係各位

ルフトハンザドイツ航空

ルフトハンザ ドイツ航空、本日、大阪＝ミュンヘン線を就航

ルフトハンザドイツ航空(以下ルフトハンザ)は、本日2019年4月1日より、Airbus A350-900型機にて大阪＝ミュンヘン線の運航を開始し、同日午前6時20分にミュンヘンからの第一便が関西国際空港に到着、また、同日午前8時50分に関西国際空港からの第一便がミュンヘンに向けて離陸いたしました。



今回の就航は、これまでの大阪＝フランクフルト線を大阪＝ミュンヘン線へと変更したもので、今回の就航により、日本＝ミュンヘン間のフライトは、東京国際空港(羽田)発着のデイリー運航に加え、関西国際空港便が週7便追加され、計週14便の運航となりました。



また、今回、新たに Airbus A350-900 型機がこの大阪＝ミュンヘン線に導入されました。A350-900 型機は、Airbus 社の新機材で、旅客 1 人を 100 キロ輸送するためのケロシン消費量は旧機材と比較して、25%下回っており、二酸化炭素排出量も 25%低減しています。さらに、飛行中の機内のエンジン音も同等クラスの航空機と比較して半減しており、エコフレンドリーなだけでなく、快適さも実現しています。

今回の大阪＝ミュンヘン線の就航に伴い、ルフトハンザ グループ日本・韓国支社長のドナルド・ブンケンブルクは次のように述べています。「今回、大阪就航 50 周年という記念すべき節目の年に、大阪＝ミュンヘン線を就航することができ、大変嬉しく思っています。バイエルンの州都であるミュンヘンは、ドイツを代表する歴史的な都市で、ミュンヘン空港はルフトハンザの第二のハブ空港であるとともにヨーロッパで唯一の 5 スター空港です。日本の皆様にもヨーロッパ内はもちろんのこと、世界各地へ便利にお乗り継ぎいただけます。ぜひ、この新しい大阪＝ミュンヘン線をお楽しみいただければと思います。」

ルフトハンザは、2019 年 4 月に大阪就航 50 周年を迎えます。今後も日本の皆様に安全、かつ高品質なフライトをご提供するために、努力して参ります。

(前頁写真上より)

- ・ ミュンヘンからの第一便到着時の歓迎放水の様様
- ・ ルフトハンザ グループ日本・韓国支社長 ドナルド・ブンケンブルク、同東アジア地区オペレーション統括 ロルフ・ピルグラム、ミュンヘン国際空港コリーナ・バーン氏とルフトハンザ乗務員
- ・ ルフトハンザ グループ日本・韓国支社長ドナルド・ブンケンブルクの搭乗のお客様へのご挨拶

ルフトハンザ グループ

ルフトハンザ グループは、売上規模で世界最大の航空グループで、ヨーロッパの航空業界をけん引する企業です。顧客、従業員、ステークホルダー、パートナーの皆様にとって、「最初に選ぶエアライン」になるべく、努力を続けています。安全性、品質、信頼性と革新性は、様々な企業活動を通じて重要視する最優先課題です。

ルフトハンザ グループは、ルフトハンザドイツ航空、スイス インターナショナル エアラインズ (SWISS)、オーストリア航空の各プレミアムブランドからなる旅客航空会社、ポイント・トゥ・ポイント型航空会社、そして関連サービス会社の 3 戦略分野で構成されています。旅客航空会社はそれぞれ、フランクフルト、ミュンヘン、チューリッヒ、ウィーンをハブ空港としています。ユーロウイングスブランドによるポイント・トゥ・ポイント型航空会社では、成長著しい個人旅行市場において、長距離、短距離路線をご提供しています。関連サービス会社は、世界の主要市場において業界をけん引しており、航空ビジネスの拡大に成功しています。

ルフトハンザ グループは、103 の国と地域の 343 都市を結んでおり、毎週 1 万 3,267 便を運航 (2019 年夏期スケジュール)。2019 年 2 月時点における保有機材は 763 機で、2025 年まで新機材の納入が続く予定です。グループの従業員数は約 13.5 万人で、2018 年は 1 億 4,200 万人のお客様をお迎えし、売上高は 358 億ユーロを記録しました。

詳細情報は www.lufthansagroup.com でご覧いただけます。

ルフトハンザグループ 日本広報事務局

株式会社 TYO パブリック・リレーションズ内 (担当: 深町、岡田、織田)
TEL: 03-5413-4670 FAX: 03-5413-4671 E-MAIL: LHG@tyopr.jp